

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 71 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

- 1 日時 2017 年 05 月 25 日 (木) 13:30~15:40
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 新堀部会長, 加藤幹事, 上田, 大久保, 小畑, 川上, 熊崎, 小山, 坂下, 田中(途中から入室), 田村, 深澤, 藤田(途中から退室), 古谷, 柳原, 山本 (16 名)
(代理委員) 三次岳志(日本原子力研究開発機構/高橋), 脇寿一(関西電力/片岡), 北山一美(東京工業大学/木倉), 田中雄司(日本原燃/熊谷), 工藤貴志(リサイクル燃料貯蔵/白井) (5 名)
(欠席委員) 伊藤, 久保, 斉藤, 中島 (4 名)
(代理常時参加者) 井上亮(原子力規制庁/吉居) (1 名)
(説明者) 【LLW 放射能評価分科会】北島英明幹事, 柏木誠常時参加者, 【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】梅原隆司幹事, 柏木誠委員, 田中正人委員 (延べ 5 名)
(事務局) 中越, 谷井 (2 名)

4 配付資料

- FTC71-0 第 71 回原子燃料サイクル専門部会議事次第 (案)
- FTC71-1 第 70 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
- FTC71-2 人事について
- FTC71-3-1 【本報告】「余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順」の改定について
- FTC71-3-2 本報告 (概要)「余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順」改定 (案)
- FTC71-4-1 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法: 2010 (AESJ-SC-F021: 2010)” の誤記等内容検討結果 (再検討) について
- FTC71-4-2 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法: 2010 (AESJ-SC-F021: 2010)” の誤記等内容検討結果 (再検討)
- FTC71-4-3 “トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法: 2010 (AESJ-SC-F021: 2010)” の正誤表 (案) (再検討)
- FTC71-5-1 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法: 2015 (AESJ-SC-F014: 2010)” の誤記等内容検討結果 (再検討) について
- FTC71-5-2 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法: 2015 (AESJ-SC-F014: 2010)” の誤記等内容検討結果 (再検討)
- FTC71-5-3 “余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法: 2015 (AESJ-SC-F014: 2010)” の正誤表 (案) (再検討)
- FTC71-6 L2L3 放射能評価標準の改定趣旨について
- FTC71-7 分科会活動状況

FTC71-8 「第4回 日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム」のご案内について

参考資料

- FTC71-参考1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
FTC71-参考2 標準委員会の活動状況

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員25名中、代理委員を含め21名の出席があり、成立に必要な委員数（17名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC71-1)

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC71-2)

配付資料FTC71-2に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、委員退任等が確認され、審議の結果、委員再任等が決議された。

【原子燃料サイクル専門部会】

1) 委員再任の決議

片岡 秀哉（関西電力）
熊崎 隆啓（中部電力）

【分科会】

1) 委員退任の確認

【L1W 廃棄体等製作・管理分科会】

都筑 康男（原子力安全推進協会）

【リサイクル燃料貯蔵分科会】

長田 博臣（原燃輸送）

2) 委員選任の承認決議

【L1W 廃棄体等製作・管理分科会】

梅原 隆司（原子力安全推進協会）

3) 幹事の指名（交代）の確認

【L1W 廃棄体等製作・管理分科会】

旧

都筑 康男（原子力安全推進協会）

新

梅原 隆司（原子力安全推進協会）

4) 常時参加者登録解除の確認

【リサイクル燃料貯蔵分科会】

吉村 英二（東洋エンジニアリング）

野島 大孝（原燃輸送）

【LLW 放射能評価分科会】

都筑 康男（原子力安全推進協会）

5) 常時参加者登録承認の確認

【LLW 放射能評価分科会】

梅原 隆司（原子力安全推進協会）

本山 光志（日揮株式会社）

（3）【本報告】 “余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の改定について（FTC71-3-1, FTC71-3-2）

LLW 放射能評価分科会の北島幹事、尾崎委員から FTC71-3-1, FTC71-3-2 に基づいて、“余裕深度対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の改定について本報告があり、審議の結果、当該標準案の原子燃料サイクル専門部会決議投票に移行することが決議された。

質疑等は以下の通り。

- Q. 余裕深度を中深度に変更しているが、他の標準も同じように修正するのか？
- A. 他の標準も、次回改定時に適宜対応することになる。
- Q. “参考” 扱いの附属書は、いつ規定化するのか。
- A. 事業者の放射能評価実績や、実データなどが入手できた段階で、これを踏まえて適切に規定化に関する検討を行う予定である。
- Q. 検出困難元素の公開図書の発行者は誰か。また、査読等は受けているのか。
- A. 発行者は電力会社。学会等への投稿論文ではないので、査読は受けていない。
- Q. ISO 標準で日本の標準は引用されているのか。引用されていないなら、二重規程にならないか。
- A. 直接的には引用されていない。また、ISO 標準自体が国内で完全にオーソライズされているわけではないので、二重規程には当たらないと考える。但し、不整合等がないよう留意はしている。
- C. 説明資料において“ISO 標準に記載されている”や“国内標準を ISO 標準に反映”などを断定的に表現しているが、誤解を招くので留意したほうがよい。
- A. 拝承。
- C. 説明資料の“元素分析データの検出下限値から始まる濃度の低い領域で濃度分布を設定する”という表現は、分かりづらい（後段の説明を聞いて初めて理解できる）。
- A. 拝承。
- C. 検出困難元素の濃度分布評価では標準偏差（ σ ）の算出方法を記載しているが、濃度の平均値の設定方法（設定した標準偏差を利用して、ND 値数に応じて 1σ 、 2σ 、 3σ を使い分けるなど）も記載してはどうか。

A. 濃度の平均値は、必要となる保守性をなどを考慮して決定することになるが、現状では対象の条件が明確でないため、この状況で設定できる標準偏差の算出方法までを標準に記載している。

C. 説明資料の“保守的標準偏差”は誤解を招く可能性もあるので留意すること。

A. 拝承。

(4)【報告・審議】“トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010 (AESJ-SC-F021：2010)”の誤記等内容検討結果（再検討）について (FTC71-4-1, FTC71-4-2, FTC71-4-3)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会の梅原幹事から FTC71-4-1, FTC71-4-2, FTC71-4-3 に基づいて、“トレンチ対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010 (AESJ-SC-F021：2010)”の誤記等内容検討結果について報告があり、審議の結果、当該誤記等内容検討結果を標準委員会で報告することが決議された。

質疑等は以下の通り。

C. 分類②（活用上問題があるため、正誤表発行）と分類③（活用上問題のない誤記であるため、次回改定時に改定発行）の判断があいまいであり、見直しが必要とのコメントがあり、見直し（③を②に変更）を行った上で、標準委員会に報告すること。

→拝承

(5)【報告・審議】“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015 (AESJ-SC-F014：2010)”の誤記等内容検討結果（再検討）について (FTC71-5-1, FTC71-5-2, FTC71-5-3)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会の梅原幹事から FTC71-5-1, FTC71-5-2, FTC71-5-3 に基づいて、“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：2015 (AESJ-SC-F014：2010)”の誤記等内容検討結果について報告がされ、審議の結果、当該誤記等内容検討結果を標準委員会で報告することが決議された。

質疑等は以下の通り。

C. 分類②（活用上問題があるため、正誤表発行）と分類③（活用上問題のない誤記であるため、次回改定時に改定発行）の判断があいまいであり、見直しが必要とのコメントがあり、見直し（③を②に変更）を行った上で、標準委員会に報告すること。

→拝承

(6)【報告】L2L3 放射能評価標準の改定趣旨について (FTC71-6)

LLW 放射能評価分科会の北島幹事から FTC71-6 に基づいて、日本原子力学会標

準“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：2011（AESJ-SC-F022:2011）”の改定趣旨について報告がされた。

（7）その他

次回第72回原子燃料サイクル専門部会は、8月23日（水）13:30から開催することとなった。

以上